

May 15, 2019

**【前日の為替概況】ユーロドル、独景況感悪化と伊財政懸念で1.1201ドルまで弱含み**

14日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続落。終値は1.1204ドルと前営業日NY終値(1.1222ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ安水準だった。欧州時間に発表された5月独ZEW景況感指数が▲2.1と予想の5.0を下回ったことが嫌気されてユーロ売り・ドル買いが優勢となった。サルビーニ伊副首相が雇用促進のため「EU財政規律違反である財政赤字の対GDP比3%超えの可能性」を示唆すると、伊財政問題の懸念が改めて意識されユーロ売りを促し、1.1201ドルと日通し安値を付けた。

ドル円は反発。終値は109.61円と前営業日NY終値(109.30円)と比べて31銭程度のドル高水準だった。トランプ米大統領が6月下旬のG20首脳会議に合わせて、習・中国国家主席と会談する意向を表明。米中貿易摩擦激化への過度な懸念が後退し、反発した。一時109.44円付近まで下げる場面もあったが、下押しは限定的でダウ平均が360ドル超上昇すると109.71円まで値を戻している。「ムニューシン米財務長官は近く訪中の可能性があり、通商交渉の継続を望んでいる」との報道もあり、相場を下支えた。もっとも、日本時間夕刻に付けた日通し高値109.77円を上抜けることは出来なかった。

ユーロ円は反発したものの上値は重かった。終値は122.81円と前営業日NY終値(122.68円)と比べて13銭程度のユーロ高水準。ドイツ景況感指数の悪化やイタリア財政を巡る懸念を背景に全般ユーロ売りが強まると21時30分過ぎに一時122.65円まで下押しする場面があった。

ポンドドルは軟調。英国のEU離脱を巡る英政局の混乱が続く中、ポンド売りが出やすい地合いとなった。米長期金利の上昇に伴うポンド売り・ドル買いも出て4時30分過ぎに一時1.2904ドルと日通し安値を付けた。英タイムズ紙に掲載された調査会社ユーガブによる欧州議会選の世論調査によると、メイ首相率いる英与党・保守党の支持率は5位に転落。保守党では支持率低下を受けて、メイ首相に今週にも退任日を決めるよう求める圧力が強まっているという。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商摩擦、自動車関税、為替報告書への警戒で伸び悩み**

本日の東京市場のドル円は、米中通商摩擦への警戒感、トランプ米大統領の自動車関税の決断、為替政策報告書、朝鮮半島や中東の地政学リスクなどへの警戒感から伸び悩む展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、ダブル・トップ(112.14円・112.40円)を形成後、窓(111.07円・110.96円)を空けて、ネック・ライン109.71円を下回ったことで、下値目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成しており、ネック・ラインが攻防の分岐点となる。

本日は、中国4月中国鉱工業生産(予想:前年比+6.5%)と中国小売売上高(予想:前年比8.6%)が発表されるが、米国による第3弾の追加関税引き上げ発表前の数字のため、ネガティブサプライズにのみ要警戒となる。また、今夜は、米国4月の小売売上高(予想:前月比+0.2%)が発表されるが、ネガティブサプライズへの警戒感が高まっていることも、ドル円の上値を抑える要因となる。

米中通商協議は、米国側の対中制裁関税(第1・2・3弾の2500億ドル+第4弾3000億ドル)と中国側の報復関税1100億ドルにより激化の様相を呈しつつあり、6月28-29日の米中首脳会談に向けて、関連するヘッドラインに警戒する展開となる。

リスクシナリオは、中国が報復措置として示唆している保有米国債の売却の可能性、米国の景気減速懸念を受けたパウエルFRB議長長の「パウエル・プット」の発動などを想定しておくべきか。

トランプ米大統領は、5月18日に「通商拡大法32条」に基づく安全保障の観点から、輸入自動車への関税適用の是非を判断する予定となっている。4月の日米首脳会談では、本格的な貿易交渉は、7月の参議院選挙後に先送りされた模様で、自動車関税の適用判断も180日程度の先送りされる可能性が報じられているものの、米中通商協議が難航していることで、自動車関税の賦課決定というネガティブサプライズに要警戒となる。

また、毎年4月中旬に発表されている米財務省の為替報告書は、米中通商協議に合わせて発表が先送りされており、今週の発表に要警戒となる。昨年4月の為替報告書では、「円は過去20年の平均よりも約25%安い」と指摘されており、対日自動車関税25%や、「為替条項」に絡んで要警戒となる。

北朝鮮が2017年以来となる短距離ミサイルの発射実験を再開したこと、イランによる中東の米軍基地への攻撃の可能性を受けて、トランプ米政権が空母打撃群をホルムズ海峡に派遣したことも、地政学リスク回避の円買い要因となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◇ 4月マネーストック M2 (予想: 前年比 2.3%)

## &lt;海外&gt;

○09:30 ◇ 5月豪ウエストパック消費者信頼感指数

○11:00 ◎ 4月中国鉱工業生産 (予想: 前年比 6.5%)

○11:00 ◎ 4月中国小売売上高 (予想: 前年比 8.6%)

○15:00 ☆ 1-3月期独国内総生産 (GDP) 速報値 (季節調整済、予想: 前期比 0.4%/前年同期比 0.7%)

○15:00 ☆ 1-3月期独 GDP 速報値 (季節調整前、予想: 前年同期比 0.7%)

○15:45 ◇ 4月仏消費者物価指数 (CPI) 改定値 (予想: 前月比 0.2%/前年比 1.2%)

○16:00 ◇ 2月トルコ失業率 (予想: 15.0%)

○18:00 ☆ 1-3月期ユーロ圏 GDP 改定値 (予想: 前期比 0.4%/前年比 1.2%)

○未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表 (予想: 1.50%で据え置き)

○20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数

○20:00 ◇ 3月南アフリカ小売売上高 (予想: 前年同月比 0.6%)

○21:30 ◎ 4月カナダ CPI (予想: 前月比 0.4%/前年比 2.0%)

○21:30 ☆ 4月米小売売上高 (予想: 前月比 0.2%/自動車を除く前月比 0.7%)

○21:30 ◎ 5月米ニューヨーク連銀製造業景気指数 (予想: 8.5)

○22:15 ◎ 4月米鉱工業生産指数 (予想: 前月比横ばい)

◇ 設備稼働率 (予想: 78.7%)

○22:30 ◎ クオールズ米連邦準備理事会 (FRB) 副議長、米上院銀行委員会で証言

○23:00 ◎ 5月全米ホームビルダー協会 (NAHB) 住宅市場指数 (予想: 64)

○23:00 ◇ 3月米企業在庫 (予想: 前月比横ばい)

○23:15 ◎ クーレ欧州中央銀行 (ECB) 理事、講演

○23:30 ◇ EIA 週間在庫統計

○16日 01:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演

○16日 01:30 ◎ プラート ECB 専務理事、講演

○16日 05:00 ◎ 3月対米証券投資動向

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

14日 09:25 格付け会社 S&P  
「メキシコを格下げする強い状況と判断するには時期尚早」  
「メキシコの格付けはペメックスが主要リスク」  
「メキシコ経済に対する下方向のリスクがメキシコの格付けに圧力」

14日 09:39 ロバートソン・ニュージーランド(NZ)財務相  
「ブレグジットや米中貿易戦争がNZの輸出を不安定な状況にする」

14日 09:49 トランプ米大統領  
「中国との協議は成功すると思う。それは3-4週間後に分かる」

14日 20:25  
「しかるべき時が来たら中国と取引するだろう」  
「習近平・中国国家主席に対し無制限の尊敬と友好がある、しかし米国にとって良い取引でなければ意味をなさないと何度も伝えた」  
「中国は金利をおそらく引き下げだろう、米連邦準備理事会(FRB)も同じようにすべきだ」

14日 09:51 麻生財務相  
「貿易制限措置は、基本的にどの国の利益にもならない」  
「米中間のやり取りは注意深く見ておかねばならない」

14日 10:50 黒田日銀総裁  
「現在の金融緩和を当分持続する必要がある」  
「低金利による銀行収益への影響は理解している」  
「5-10年で地方の金融機関に困難が生じる恐れがある」  
「物価上昇のモメンタムが失われれば躊躇なく緩和検討」

14日 13:59 王毅中国外相  
「米中は、貿易問題を解決できる能力と知恵がある」

14日 16:17 ビルロワ・仏中銀総裁  
「3月に発表された金融政策は現段階では適切」  
「最近の経済指標の数字は3月の予想と矛盾はしていない」  
「地政学の不透明さが依然として続いている」

14日 16:19 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁  
「将来の不況時の利下げ余地は限られるだろう」  
「中立金利が低下したことで新たな政策アプローチが必要になる」

14日 18:38  
「米国経済はしっかりと回復している」  
「企業の景況感と消費の弱い兆しを注視している」  
「関税が大きくなればインパクトもより大きくなる」  
「米国経済のファンダメンタルは依然としてかなりしっかりとしている」

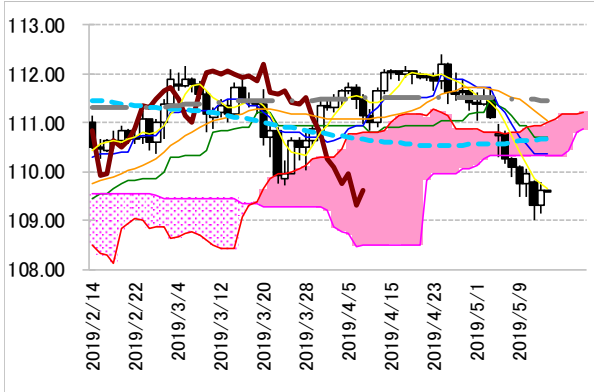
14日 16:54 中国外務省  
「米中は対話の進行を続けることに合意」  
「外国企業が中国で投資を広げることを歓迎する」  
「中国が自国の利益を守ることに、米国が過小評価をしないことを望んでいる」

14日 18:17 茂木経済財政相  
「輸出や生産は弱さが続いているが、内需や設備投資や消費はしっかりしている」

15日 01:50 ジョージ米カンザスシティ連銀総裁  
「利下げはバブルと景気後退につながるリスクもある」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

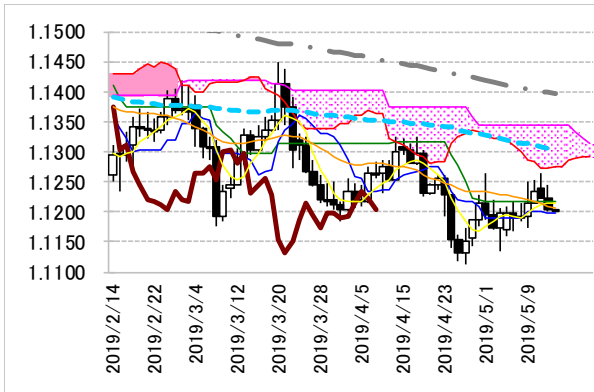


### ＜ドル円＝一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス＞

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。ダブルトップ(112.14円・112.40円)形成後の窓(111.07円・110.96円)空けて、下値目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成している。

本日は、ネックライン109.71円を念頭に置き、一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	110.32(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	109.61
サポート1	108.50(1/31 安値)
サポート2	107.77(1/10 安値)

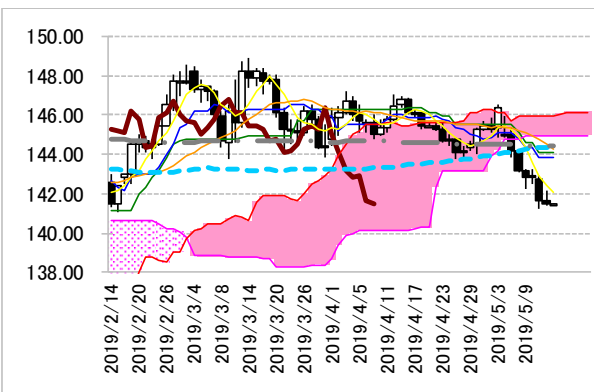


### ＜ユーロドル＝一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス＞

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。高値圏でのカプセ線、2手連続陰線で下落トレンドの可能性が高まりつつある。

本日は、一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1274(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1204
サポート1	1.1135(5/3 安値)

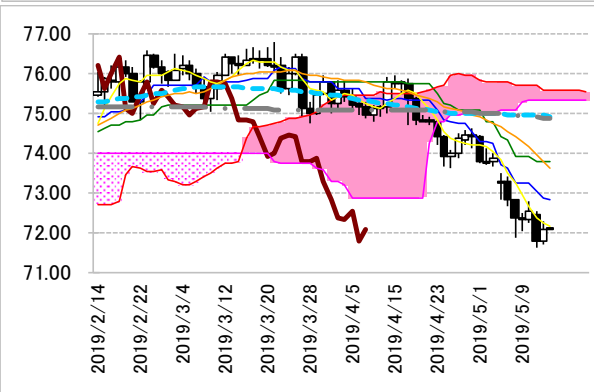


### ＜ポンド円＝5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンス＞

小陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	142.05(5日移動平均線)
前日終値	141.45
サポート1	140.63(1/22 安値)



### ＜NZドル円＝一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンス＞

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線で反発の可能性が示唆されていることには要警戒か。

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	72.81(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.08
サポート1	71.63(5/13 安値)

